

規則内容の変更

1. まえがき

ミニバスケットボールにおける考え方について、これまで「まえがき」と「あとがき」に分けて表していたものを、「まえがき」に集約して表した。より目を通しやすくすることを目的とし、その精神と内容には変わりはない。

2. 名称の変更

「ミニバスケットボール」を「ミニバスケットボール」とした。

「スコアキーパー」を「スコアラー」、「アシスタント・スコアキーパー」を「アシスタント・スコアラー」と名称の変更をした。

「フリースロー・レーン」の表記をしない。

「チャージドタイム・アウト」を「タイム・アウト」とした。

3. 注釈の表記

これまですべての条文の後に記述していた規則の注釈を条文の後に記述した。

4. スコアシートの様式の変更

これまでの様式から、ランニング・スコアをチェックする一般競技用スコアシートに近い様式に変更した。

5. 第4条 境界線とコート内のライン他

「フリースロー・レーン」から「制限区域」と「フリースローを行う半円」という呼び方に変更した。

6. 第8条 ゲーム器具

(9)として「ポジションの表示器具(ポジション・アロー)」についての記述を追加した。

7. 第9条 審判

(7)を「必要なときは秒数を数える」とし「黙って」を削除した。

5秒に関してレフェリーは、はっきりとジェスチャーしてカウントすることにした。

8. 第11条 タイマー

ゲームの前半と後半の開始の3分前に加えて1分前にも合図器具をならして審判と周囲に知らせることを書き加えた。

また、タイム・アウトなどの時間をはかるために操作する器具にストップウォッチを加えた。

30秒オペレーターの合図がゲームを止めないことになったため、「次の瞬間にゲーム・クロックを止める。」の「(3)30秒の合図があったとき」を削除した。

9. 第 12 条 30 秒オペレーター

30 秒はボールがシューターの手から離れ、バスケットに入るか、リングに触れた時に終わることに変更した。
このことによって、ショットされただけで 30 秒をリセットしない。
また、30 秒オペレーターの合図がゲームを止めることはなくなった。

10. 第 18 条 ジャンプ・ボール

30 秒の合図がゲームを止めなくなり、「ショットされたボールが空中にある間に 30 秒の合図が間違っ
て鳴ってしまい、そのショットが成功しなかったとき」の規定を削除した。

11. 第 21 条 同点と延長

「後半を終わったとき両チームの得点と同じならば引き分けとする」ことを明記した。
大会などにおいて延長時限を行う場合には、3 分間の延長時限を必要回数行うことに変更した。

12. 第 23 条 出場と交代

フリースローの前にタイム・アウトがあり、最後のフリースローが成功したときは、フリースロー・シューターが交
代できることにした。

13. 第 24 条 タイム・アウト

フリースローが行われるときは、審判がフリースロー・シューターにボールを与える前であればタイム・アウトが
認められることに変更した。
フリースロー・シューターを交代させたいときは、コーチはその旨をテーブル・オフィシャルズにはっきりと申し出
なければならない。

14. 第 36 条 近接してディフェンスされたプレイヤー

「1m 以内に近づいて」を削除した。

15. 第 37 条 30 秒ルール

30 秒以内にショットされたとき、ボールがリングに触れずに成功しない場合、30 秒はリセットされないこと
に変更した。

16. 第 48 条 チーム・ファウル

フリースローが与えられるチーム・ファウルの回数を、各ハーフ 7 回から各クォータ 4 回に変更し、5 回目の
パーソナル・ファウルからフリースローが与えられることに変更した